



基本方針

標津キラリ遺産のさらなる充実

持続可能な標津キラリ遺産保存・活用体制の強化

標津キラリ遺産を通じた標津町のブランド力強化

課題

- 調査が十分に行き届いていない標津キラリ遺産の存在
- 家庭レベルに埋もれた標津キラリ遺産候補の存在可能性

- 標津キラリ遺産の保存・活用の担い手不足
- 民間所有の標津キラリ遺産の管理の不安
- 標津キラリ遺産保存・活用資金の柔軟性不足

- 標津キラリ遺産の価値の固定化への懸念
- 標津キラリ遺産が有する価値の認知度不足
- 不十分な標津キラリ遺産の保存・活用環境

方針

- 多様な主体による標津キラリ遺産の情報収集
- 教育カリキュラムと連携した未発見標津キラリ遺産の把握

- 標津キラリ遺産保存・活用の多様な担い手確保と仕組みの構築
- 指定文化財の管理マニュアルの作成
- 標津キラリ遺産活用による新たな財源確保

- 指定等文化財・未指定文化財の保護・保全と調査の推進
- ストーリーを通じた標津キラリ遺産の価値の発信
- 標津キラリ遺産保存・活用環境の段階的整備

措置の例

**A-1 標津キラリ遺産掘り起こし調査事業**  
 イベントやアンケート調査等の実施により、特に建造物と無形文化財を中心に未把握の標津キラリ遺産を把握する。  
 ●行政、専門機関 ●R7~16



**A-3 歴史文化教育カリキュラム構築事業**  
 小学校、中学校、高校と連携し、教育カリキュラムの中で標津キラリ遺産を把握する。  
 ●行政、学校 ●R7~16



**B-6 文化財サポーター受入事業**  
 町外関係人口を巻き込みながら文化財保存・活用の支援者を募る仕組みを構築する。  
 ●団体 ●R10~16



**B-8 標津キラリ遺産トラスト事業**  
 標津キラリ遺産のきめ細かな保存・活用を実現するため、ガイド収入等の一部を財源として活用できる仕組みを構築する。  
 ●団体 ●R11~16



**C-1 未指定文化財調査・新規指定事業**  
 未指定文化財について優占順位を明確にした上で必要な調査を実施し、新規指定による保護を目指す。  
 ●行政、専門機関 ●R7~16



**C-11 歴史文化アーカイブ事業**  
 標津キラリ遺産の調査成果をデータベース化し、調査成果を蓄積すると共に、誰もがアクセスできるようにする。  
 ●行政、学校 ●R11~16

## 歴史文化の特性に応じた5つの関連文化財群の設定



## 5つの関連文化財群が語るストーリー

### ① 鮭の聖地の源流を支えた自然環境

川で生まれ大海へと旅立ち、再び生まれ育った川へと帰る鮭は、大地と海とを往来し、あらゆる生命の糧となることで、生態系全体を象徴する存在だった。太古から続く鮭が遡上する環境は、標津の歴史文化を育む形成基盤となっている。

### ② 自然と調和した鮭の聖地一万年の源流

鮭が支える生態系に、いまから一万年、人類が関わり始めた。標津の人々は鮭の利用に重点を置いた暮らしのスタイルを築き、以来数千年にわたり、時代を超えて自然と調和した暮らしを維持し続けたのである。

### ③ 水産のまち誕生・発展の道程

江戸時代に入ると、標津の鮭を巡る人々の動きが活発になり、アイヌ、和人、ロシア人の三つ巴の衝突と交流が起こる。この交流を経て、江戸時代末期、北の国境警備のために会津藩士が標津に派遣された。会津藩士南摩綱紀は、この地でアイヌと和人が共に臨む蝦夷地開拓を目指し、いまにつながる水産のまちの礎を築いた。

### ④ 開拓精神が生み出した新たな産業文化の道程

明治時代の缶詰技術導入は、標津の水産を発展させる一方で、天然資源の鮭の減少を招いた。この鮭が獲れなくなった時代、人々は新たな産業を生み出すため、試行錯誤を繰り返す。この時誕生した産業の1つに酪農がある。入殖者は厳しい自然条件に果敢に挑み、ついに広大な根釧台地開拓に成功したのである。

### ⑤ 海と山を結び暮らしを支えた根釧台地への道程

鮭が獲れなくなった時代、人々は新たな産業確立を目指し、広大な根釧台地内陸の開拓を目指した。この時、開拓の起点となった海岸部のまちから内陸部をつなぐ、交通路が整備される。明治時代の駅選制から、昭和の殖民軌道、そして国鉄標津線へと、人々と物資を運ぶ交通網は順次発展していったのである。

## 関連文化財群の地理的分布と対象の標津キラリ遺産



**概要** 江戸時代に入ると、標津の鮭を巡る人々の動きが活発になり、アイヌ、和人、ロシア人の三つ巴の衝突と交流が起こる。この交流を経て、江戸時代末期、北の国境警備のために会津藩士が標津に派遣された。会津藩士南摩綱紀は、この地でアイヌと和人が共に臨む蝦夷地開拓を目指し、いまにつながる水産のまちの礎を築いた。

## 関連文化財群に関する課題

- ・歴史文化の魅力を伝えられる人材が不足
- ・標津キラリ遺産の中に劣化が進行しているものもある
- ・鮭漁や鮭の食文化の魅力も半減した状態で認識されている 等

## 関連文化財群に関する方針

- ・標津地区小中学校のふるさと教育において標津キラリ遺産を活かしたカリキュラムを造成し、歴史文化に理解のある人材の育成を図る
- ・劣化が進行している龍雲寺と標津神社が所蔵する標津キラリ遺産について、レプリカ制作や保存処理等による保存を図る
- ・歴史文化にちなんだ商品開発による標津中心地の魅力向上を図る 等

## 関連文化財群に関する主な措置

### 3-2 標津地区歴史文化教育カリキュラム構築事業

標津小学校、標津中学校と連携し、教育カリキュラムの中で、歴史文化への学びを深める仕組みを構築する。

■行政・学校 ■R7~16

### 3-4 龍雲寺標津キラリ遺産保存事業

龍雲寺が所蔵する「千紫万紅図」「釈迦涅槃図」等指定文化財を保存するため、レプリカを制作するなど適切な保存処理を施す。

■行政・団体 ■R13~16

### 3-6 水産のまち魅力創出事業

ストーリーを象徴する地域生産品を活かした食のメニュー開発と提供を通じて、生産品から標津キラリ遺産の魅力を伝える仕組みを構築する。

■団体 ■R9~12

## 主な構成文化財

